

# 豊中勤労者山岳会

## 2007年度 初級登山学校

### 「受講報告」綴



(制作: 久保田)

# 目次

BMmokuji

座学：開校式と装備 .....	<a href="#">BMP02</a>
実技：歩行訓練安全登山 .....	<a href="#">BMP03</a>
実技：道場／大岩岳での読図 .....	<a href="#">BMP04</a>
座学：安全登山と岩場の歩行 .....	<a href="#">BMP05</a>
実技：清掃登山・テント泊 .....	<a href="#">BMP06</a>
実技：室内クライミング体験 .....	<a href="#">BMP07</a>
実技：百丈岩(鎌倉峡)と蓬莱峡(岩場歩き) .....	<a href="#">BMP08</a>
座学：山行計画の立て方 .....	<a href="#">BMP10</a>
座学：山の天気 .....	<a href="#">BMP11</a>
実技：比良山縦走 .....	<a href="#">BMP12</a>
実技：沢登り .....	<a href="#">BMP13</a>
所感綴：「'07 初級登山学校」修了 .....	<a href="#">BMP14</a>

# 初級登山学校第一回（座学・実技）

村田 将章

## 座学

日時・場所:4月18日(水) 豊中福祉会館 (PM7:00～PM9:00)

内容:開校式・安全登山・装備説明

- ・ 北村会長のあいさつ
- ・ 伊藤校長のあいさつ
- ・ 久保教育部長のあいさつ
- ・ スタッフの紹介
- ・ 生徒の自己紹介
- ・ 班分け
- ・ 講義

多田講師からの初級登山学校に必要な装備品の説明がありました。何故、そのような装備品が必要かという説明をして下さり、勉強になりました。

その後、初級学校の生徒の班分け、各班の班長、会計などを決めました。その後、班ごとに分かれ、今回の座学の安全登山についての座学の講義が始まりました。今まで知らなかった事や注意する事などが多々あり、大変ためになりました。

最後に始めての実技に向けての説明です。もう一度再確認の意味を含めて勉強になり、また初めての实技の訓練ですので、不安と期待の気持ちが半分づつですが、当日に向けて体調を整え、頑張ろうと思います。

**実 技**

日時・場所:4月22日(日) AM8:00 宝塚駅集合

内容:安全登山(歩行訓練)

参加者(スタッフ):多田・伊藤・久保・嵯峨山・広高・延本  
(生徒):井畑・久保田・佐藤・村田・箕林・村山

コース:阪急宝塚駅バス停(8:00)→座頭谷(8:20)→蓬莱峡(8:30)  
(8:50~10:15まで蓬莱峡にて歩行訓練)  
蓬莱峡(10:15)→エデンの園(11:55)→塩尾寺休憩所(14:50)→宝塚(15:40)

本日スタッフ6名、生徒6名での実技—安全登山(歩行訓練)のスタートです。私は、蓬莱峡に来たことがなく、第一印象は蓬莱峡の風景に大変驚きました。実際の訓練は、多田講師から訓練内容の説明と手本を見ながら、生徒による訓練のスタートです。私を含め、生徒全員緊張しながら、けがをしないように注意し訓練をしました。その後は、蓬莱峡から塩尾寺を経て、阪急宝塚までの山行です。本日は雨のため少し歩きづらかったですが、歩くとき、今日の訓練を思い出しながら歩きました。最後に塩尾寺の休憩所で、本日の感想と簡単な反省会をしました。本日の訓練は大変充実した一日だったと思います。

初級学校のスタッフの皆さん、本日は大変お世話になり、ありがとうございました。

また、初級学校を通して知りあった生徒の皆さん、全員無事、7月には卒業できるようにお互い助け合ってがんばりましょう。スタッフの皆さん今後とも宜しくご指導お願いします。



## 「道場／大岩岳での読図実技」報告

報告 久保田 明

日時 2007年5月20日(日)

集合 JR道場駅 9時

行程 JR道場駅⇒千刈水源地浄水場駐車場 10:00⇒A地点～[班別コース]⇒大岩岳⇒  
[班別コース]⇒A地点⇒千刈水源地浄水場駐車場 15:05⇒JR道場駅

参加者 [指導]久保、伊藤、川津勉、川津一、上口、嗟峨山、北谷、杉本

[生徒]村田、小前、佐藤、山村、久保田、井畑、箕林、山本理

[生徒外参加]荒賀

・・・敬称略 班名略 計画書順

### 報告

今日は、5月16日の「読図座学」を受講した後の実技訓練です。前日、地形図に目的地の2km四方にある計曲線、尾根、谷、小ピークを色塗りした。我々は、第3班で生徒3名に指導員2名がついて下さる。まずは、「駐車場からA地点へ」であるが、その手前によく似た分岐があり、それを西へ進んでしまった。道ではあるが踏み後はなく斜面を滑ると水源地に落ちてしまう景況なので直ぐに引き返した。(私は、コース確認が怪しくなると5分以上進まず引き返す事している。)元場所から100m程進んでA地点に着く。初っ端から道間違えで気を引き締める。先頭を生徒3人で交代しながら地形図と首っ引きで進む。幅員1m弱の徒歩道で、先程入り込んだ道とは大違い。今日指定されたコースの道状態を把握する。次のG地点を行過ぎないように確認しながら標高差100m程の緩斜面を登る。G地点からZ地点である大岩岳頂上までの道は、地形図には書かれていない。だが、はっきりした道があり、90m登りで区界線上に出ると標識石柱が小刻みに立っていて頂上まで続いている。小ピークを越えて60m登りで頂上に出た。384.1mの三角点にタッチ。頂上からは、5本も道が出ているので、今登ってきた道を再度確認しておく。きっちり12時なので昼食にありつけた。やれやれ！

間もなく2班も到着。食後、テキストに説明されている「現地地点確認(Cross Bearing)」を実習する。布見ヶ岳や羽東山や近くのピークを目標物にするも誤差が大きくてきっかりと大岩岳で交わらない。下に見える千刈ダムの出っ張りを同定できるのでそれを目標にするとぴったり合って納得する。(小生、ヘラ鮎釣師にてダム湖の形丈には年季入りである・・・閑話休題！)

午後からのC1地点へ出発。頂上からの進行方向は地形図で十分確認しないと大失敗になる。区界線上の道を辿り70m急下りでC1地点を確認してC地点に出る。ここは千刈堰堤から丸山へ向かうコースの途中である。次はD地点までのピストンである。D地点がはっきりしないので念の為300m先へ進んで分岐を確認してから戻った。殆ど高低差のないD→C→Bを経てS地点に着く。S地点を道なりに進むと谷に入りテープが幾つも巻いてあるものの踏み後のない靴幅程の悪路である。コースを外したと判断してS地点へ戻り、一息入れてルートを探す。指導の方の“S地点からは間違えやすいですよ！”の助言をもとに、地形図にある道を見つけた。これでA地点に向かえるので、途中タニウツギを愛でる余裕も出来た。出発したA地点に無事戻り、指定された読図コースを完歩。第3班全員で本日の大健闘を讃えた。

駐車場前に計画通り15時に到着、下山後のミーティングになる。生徒全員が充実した実習を喜び満足すると共に、貴重な時間を割いて指導下さった皆様方に感謝を捧げました。

読図は、山行に際して「行程を計画に沿って安全に進む」ための大切な技術である。これからの山行に活用して、一層レベルアップを図りましょう。

## 初級登山学校座学「安全登山と岩場の歩行」

報告 山本理絵

日時:5月30日 19:00~21:00

場所:豊中労山事務所

講師・スタッフ:舩井、伊藤、川津勉、川津一二三、嵯峨山(敬称略)

生徒:佐藤、村田、井之上、小前、箕林、山村、井畑、久保田、山本理

## ■資料の「登山技術の意味」を生徒が音読

安全登山に必要なのは知識、技術、体力。

最初に一人ずつ自分の考える「安全登山とは」について発言した事から、登山の経験がたくさんある者程、たくさんの知識がある事を実感させられる。

そして技術の基本は歩き方であるということで、靴と斜面に例えた紙をつかって歩き方をレクチャーして頂く。

坂道では足を蹴り上げずに引き抜く。下りでは靴底をフラットに置いて全体に摩擦かけるなど。

## ■ロープの練習

- ・クローブヒッチ
- ・クレムハイス・ノット
- ・ダブルフィッシャーマンズ・ノット

以上3つを教えて頂く。クローブヒッチは講師や既に知っている生徒それぞれのやり方があり、全てを聞くと結べなくなった。自分のやり易い方法一つに絞れば良いとアドバイス頂きやっとな出来るように。

忘れず現地ですぐに出来るよう自宅でも練習する様にとのこと。

カタカナの名称を覚える方が難しい。

このそれぞれの結び方やカラビナを実際にどのような場面で使うのか分からない為、実技では用途も学ばなくてはいけない。

## 初級登山学校実技「清掃登山・テント泊」

報告 山本理絵

日時:6月2日(土)17:00~3日(日)15:00

場所:妙見山

講師・スタッフ:舂井、伊藤、朝日、木嶋、橋本、横山、中西、河野、塚本、羽馬、関根、広高、嵯峨山、金本、降旗、北谷、仁井谷(敬称略)

生徒:小前、佐藤、山村、井之上、村田、久保田、箕林、井畑、山本理

6月2日

17:00 集合

17:20 テント場へ移動

17:45 各班に分かれてテント設営、夕食の仕度

21:00 自己紹介や山の歌を楽しむ

23:00 全員就寝

6月3日

5:00 起床、朝食、テントの片付け

7:00 ザイルワーク、移動の準備

9:00 妙見口駅前集合の後、川の清掃

11:45 テント場にて、着替えと昼食

12:30 ボッカ訓練、折り返し地点にてパッキングの指導

14:00 下山

15:00 解散

生まれて初めてのテント泊。大きなザックに体を振られちびちびしか歩けない。

限られたスペースでの荷物の出し入れもストレス。とにかく何をすることも手際悪く時間がかかる。協調性について考え、眠れない夜。早くもテント泊で、山を楽しむ為にはなんてたくさんの壁を超えなきゃいけないのかとため息が出た。

そんな軟弱都会っ子の私が吐く弱音を責める人ではなく、テントの張り方、ロープの結び方、パッキング。たくさん学ぶ事はあったが、大きな感動を得る様な登山をするには、励ましやアドバイスをくれる方々の様な広い心と思いやりをまず身に付けるべきだと思った。

## 第9回 室内クライミング体験

A 班 小前 珠江

日時： 6月6日(水) 午後7:00～9:00

場所： OCS

スタッフ： 伊藤校長、舛井、朝日、根家、中西、橋本

生徒： 1班 村田、佐藤、于饒村、小前

2班 久保田、井畑、箕林、山本

最初に伊藤校長の挨拶があり、全員で準備体操の後、OCS 室内にて、垂直の壁を約10m、全面ホルダー壁をスタッフの指導のもと水平に進む練習をしました。

生徒全員はクライミング経験が無いため、手や足の運び方について指導を受け挑戦した。色分けしたホールドに手や足をかけて進むがなかなか難しい。

続いて屋外で垂直に登る練習をする。基本的なロープの結び方・基礎。クライミングをする前に必ずロープを2,3度強く引いて確実に結ばれているか確認してからクライミングをする事を教わる。

腕の力でなく、足で登っていく指導を受けるが、つい腕に頼ってしまい疲れてしまう。

簡単そうに思えたが、頭と体がついていかない。クライミングは試行錯誤で登る事だと思いました。腕の力が無くなって何度かやめようと思ったが、皆さんの応援で登れた時の達成感は最高でした。

今回のクライミングは、なかなか普段経験することのない大変貴重な時間でした。



## 実技 百丈岩(鎌倉峡) 蓬莱峡(岩場歩き)

A班 小前 珠江

日時 6月16日(土)・17日(日)

場所 百丈岩(鎌倉峡) 6月16日(土)

蓬莱峡(岩場歩き) 6月17日(日)

コーチ 伊藤校長・嵯峨山副校長

スタッフ C班

参加者 1班 1日目 佐藤・山村・小前

2日目 佐藤・山村・小前・村田・井之上

2班 1・2日目 久保田・井畑・箕林・山本

行程 6月16日(土) 12時道場駅集合→12時40分百丈岩(鎌倉峡) テント場着→  
14時夏山に向けてのレレプレスキュー(C班)→16時夕食準備

6月17日(日) 5時30分起床(朝食・テイト撤収)7時百丈岩(鎌倉峡) 出発  
→7時50分宝塚着→9時蓬莱峡着→岩場歩き講習→14時  
30分蓬莱峡出発→15時42分宝塚着解散

1日目 晴天。ほたる山行

2時からC班の指導のもとセルフキューを学びました。けがの応急処置の骨折の固定にスパーのビニール袋・衣服が役に立つと聞いて考えた人はすごいと思いました。

足首捻挫の固定法も実際にしていただきしっかり固定されているのが実感できました。

ちょっともったいなーと思ったのは値段の高いキネシオテープをいっぱい使うところです。主婦の感覚ですいません。

夕食はトントロ焼き・豚汁・ポテトサラダに感動!!!!してたらA班から近江牛1パック・ビール・そして菊水美味しい〜お酒最高!!

A班の班長さん太っ腹ご馳走様でした。

ホテルもいっぱい飛んでいてこっちの水はあ〜まいぞ!とホテルの舞で心和む1日でした。ありがとうございました。

2日目 9時蓬莱峡着

晴天。岩場歩き

講習会の内容

ロープの結び方(フレンチ・プルー・ジェック エイトノット)

岩場歩き(岩歩行・クレームハイスト・けんすい下降・フリークライミング)

手と足だけを使って自然の岩場を歩くフリークライミングですが全身のバランス感覚と登りやすそうなルートを見つける判断力をフルに使って目標地点まで登りきった時の充実感は素晴らしいと思いますがしかし、初めての私には何処に手足をかければ登りやすいか三点支持が分からず挑戦する意欲もうすれていました。

しかし、最後に同じクラスの人にゆるい方のフリークライミングを勧められてイヤイヤ挑戦。C班の方の指導で三点支持を行いならあれよあれよというまに目標地点まで登りきることができました。

やっている時は恐怖感を感じたけれど終わった後は充実感で一杯でした。

自分の実力が経験とともに向上していくように頑張りたいと思います。C班の方々お世話になり有難うございました。沢もご指導の程宜しく願います。

日時	6月13日(水) 午後 7:00～9:00	
場所	岡町福祉会館	
講師	中嶋晴夫	
受講者	1 班	久保田、井之上、山本
	2 班	佐藤、山村、箕林恵美
	3 班	村田、井畑、小前

#### 講義内容

1. 事故を未然に防ぐための夏山登山計画の立て方
  - ① 事故が起きる原因
  - ② 事故を防ぐための山の選び方とメンバーの選定
  - ③ より安心して登るためのトレーニング山行の組み方
  - ④ 事故を防ぐ計画のポイント
  - ⑤ 登山計画書を作成し、提出する。
2. 模擬山行計画書作成

#### 感想

かつて、一度も山行計画書を作成したことがなかった。しかし、その重要性を知り、計画の段階で既に登山は始まっているのだなあ実感した。地図を眺めながら、具体的に山容やルートイメージし、メンバーの力量を照らしつつ歩く速度を鑑みて計画を立てる。空想の世界は瞬く間に時空を越える。やはり、山は楽しい。そう、楽しい登山の為にも、計画は不可欠であると思った。

## 山の天気



. . .



A 班 佐藤紀代子

日時・場所： 6月20日(水) 19:00～21:00 豊中福祉会館

地震・雷・火事・おやじは、怖いものの代名詞として使われていますが？  
また女心と春の空、男心と秋の空(うつろいやすく・冷めやすい)ということでしょうか？

竹下講師にて下記の事につき学びました。

- \*気圧とはなに？
- \*風とはなに？
- \*風の強さは？
- \*上空の風と地上の風
- \*高気圧・低気圧
- \*雲はどうしてできる？
- \*雲の種類
- \*天気は西から東に変わる
- \*日本の天気を支配する気団
- \*前線について
- \*雷雨

四季の代表的な天気として

- 春： 寒のもどり・春の嵐
- 夏： 梅雨・太平洋高気圧・雷雨
- 秋： 秋雨前線・台風・移動性高気圧・木枯らし
- 冬： 西高東低・里雪型

山の天気は山岳遭難事故に深く関わっています。

道迷い(霧・雨) 滑落(雨・突風) 落石(雨によるゆるみ)等天気が間接的に影響します。遭難原因のうち、疲労・悪天候・雪崩・落雷は直接気象現象が原因となっています。

雷のとき、時計・メガネ・貴金属は外さなければならいと言われますが、現在では外す必要のないとの事です。雷は尖ったものに落雷する傾向があるので、傘をさしたりステッキをザックに縦につけて立っているのは、大変危険ですので、低い所で突起物を外し姿勢を低くして雷雲が去るまで動かない事が大事です。ただし、地面に手を付いて伏せるのは近くに落雷した時に手から足に電流が流れる危険あり!

山の天気の特徴を知って安全な登山を楽しみましょう。この講義を終えてから、何気なく見っていた雲の見方が変わりました。

## 初級登山学校実技(比良山縦走)

報告:井畑秀敏

日 時:6月30日(土)7:15 ~ 7月1日(日)13:00

場 所:比良山

講 師:久保、佐野、多田、大成、徳原、野村、山田

スタッフ:北谷、嵯峨山

生 徒:井之上、久保田、佐藤、箕林、村田、山村、山本、井畑

## 6月30日(土曜日)

幾分緊張気味で全員集合、初めてのテント泊縦走なのでザックの重さが気になる様子。お互いの重さを確かめ合っていた。

堅田からバスで坊村に向かう。山間部に入るにつれて幾分空が怪しくなってきた。自称“雨男”の生徒会長に敬意を表しているのか、と思いつつも晴男晴女の勢力で雨が降らないことを願う。

10時、登山口を出発して本日のテント場(木戸峠)を目指す。

10時40分、三の滝に到着。更に牛コバを過ぎしばらく行くと林道から離れ白滝谷に沿っての沢道に入る。岩の上や丸太の橋は滑りやすいので足元に注意しながら進む。

昼食後13時30分、滝見不動で休憩、ザックを降ろして夫婦滝を見に行く。ザックが無いと、こんなにも軽やかに歩けるものかと改めてザックの重さを感じる。

15時、皆無事テント場に到着。テントを設営し、食事の準備をする。途中から小雨がぱらついていたが幸い本降りにならずホッとする。自分たちの食事は程々にしてB班の先生方の食事のご相伴に与りに行く。「地べた?カレー」に「和牛たたき」、どちらも実に美味しく、本職以上の味に皆舌鼓を打つ。

## 7月1日(日曜日)

5時起床、各生徒の指導による準備体操を終え、7時に木戸峠を出発する。今日は生徒が交代でリーダーとなり、読図をしながら歩く。比良岳、烏谷山を経て10時37分、金糞峠に到着昼食をとる。やっと霧が晴れて琵琶湖が見えるようになった。

11時出発、「青ガレ」を下って比良駅に向かう。かつては青色の岩石で文字通りの「青ガレ」だったそうだが今はすっかり変色してしまい、目を凝らすと微かに青色のところが確認できる。へたに滑って転ぶと大けがをするので神経を使う、下りはさらに続き緊張で全身から汗が噴き出してくる。隠れ滝の近くで休憩を取り、滝を見に行く。水しぶきを全身に浴び体の熱が一気に冷め、気持ち良く、皆歓声をあげる。

13時大山口で解散後14時JR比良駅に到着、14時23分の電車で帰路に着く。

## 初級登山学校実技 『沢登り』

村田 将章

場所:比良山系(白滝谷)

日時:7月17日～18日

参加者(スタッフ):伊藤、嵯峨山、降旗、木嶋、榊井、朝日、橋本、神田、横山、根家

(生徒):小前、村田、山村、佐藤、久保田、山本、箕林

ルート:防村～牛コバ(林道)～牛コバ(沢)～夫婦滝(登山道)～牛コバ～坊村

(感想)

初級登山学校実技の最後の仕上げとして、今回沢登りの実技となりました。私は、仕事の都合上、遅れて校長の伊藤さん、副校長の嵯峨山さんと一緒に行くこととなりました。

初日は、何もせず、テント泊だけなので、スタッフと生徒で楽しく過ごせました。

2日目は、いよいよ朝から沢登りの始まりです。普通の登山と違い危険を伴うので、生徒は緊張しながらの出発です。数日前に雨が降ったので、水量も多く少し沢の水は冷たく感じました。

実際の実技は、先導してくれるスタッフの方について行くのが精一杯でずっと緊張の連続です。でも普段できない沢登りをでき、とても楽しいです。また、普段と違う山の見方ができ、山の表情の変化にも感動しました。また、今まで習った歩行訓練から岩登りまでの事を思い出しながら沢登りを楽しみました。最後に夫婦滝のところの滝壺にみんなでダイブし、とても楽しく思い出に残る山行となりました。

最後に初級登山学校に関わったすべてのかた方々、同じく一緒に学んだ生徒のみなさん、大変ありがとうございました。今後もこの経験を活かし、後に続く方々に伝えて行ければと思います。

また、今後もどこかでお会いする機会が多々あると思いますので、今後も宜しく願います。



【井之上】最初は不安だらけだった初級登山学校。何度か仕事の都合で欠席した事はあるものの、自分の中では十分過ぎる位に得られる事が多かったと思います。登山に関する知識はもちろん、自然界に対する敬意やマナー等を教えていただいた講師の方々に、心より感謝いたします。この学んだ事を活かしこれからも山と仲良くできますように・・・。

【井畑】過ぎてしまえば、あつという間のできごとだった、という感じです。昨年春、テレビで富士山の特集を見て、ご来光が素晴らしく、自分の目で見てみたい、と始めたハイキンですが、すっかり病みつきになり初級登山学校に入りました。歩き方に始まり、岩登り、懸垂下降、テント泊、重いザックでの縦走、読図など生まれて初めての経験ばかりでしたが、おかげでかなりの自信がつかしました。9月初旬に富士山に登り、ご来光を見て、お鉢めぐりもしてきました。頂上付近では酸素不足のせいか息苦しさを感じたものの、体力的にはさほどの疲労感も無く自分でもびっくりしています。この経験と知識を活かしてこれからも、安全で楽しい山行をしたいと思っています。

【久保田】4月18日の開校式から7月18日の閉校式まで座学8回と実技7回を皆勤出来ました。9月の修了山行もテントを担ぎ元気で和やかに歩きました。閉校式から後の毎週の山行で、その都度ご指導頂いた事柄を役立てています。お陰様で白峰三山の3000m五座一気縦走(個人山行)も果たせました。多くの講師やサポートの方々とお話して喜んでいます。貴重な時間を割いてお世話下さいました皆様方に“非常感謝！！”でございます。

【小前】伊藤校長、嵯峨山副校長、スタッフの方々お世話になりました。ふとしたきっかけで、初級学校に入学しスタッフの皆様の暖かい熱意で頑張れることができました。重いリュックを背負った後のごほうびが自然の中で食べる美味しい料理とお酒。皆で語らいながら1日が終わる事でとても充実感を感じました。スタッフ方々の指導で学んだ事を今後、生かして実行して行きたいと思っています。有難うございました。

【佐藤】基本の歩き方から始まり、テント泊・沢歩き・岩の体験と盛り沢山でした。自分の山歩きの「再確認」が出来安全な山行の再認識が出来ました！初級学校万歳!! 講師をして下さった皆様にお礼申し上げます。

【箕林】専門用語に戸惑いながらのスタートでしたが3ヶ月間、座学と実技の両面から暖かく熱心にご指導頂いた結果、山、自然が身近になり、楽しみが広がりました。先生やスタッフの方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、学校を経て多くの山仲間と巡り合えたことも大きな喜びです。大勢の方に同様の喜びを分かち合いたいものです。

【村田】私が、初級登山学校に入った動機は、基礎的な登山技術の習得と仲間作りが主な目的です。色々な事を先輩方に教えて頂きました、同じ初級登山学校の同期の仲間もでき、大変感謝しています。特に同じ体験をした同期の仲間ができたことは、大変嬉しく思っています。また、自分自身もさらなるステップアップをしていくつもりですので、どうぞ皆様今後ともご支援よろしくお願い致します。

【山村】昨年1年間兵庫県連の登山学校に入会したが、再度山行技術を習得するとともに、資質の向上を図りより安全に行動できるようになる事を目的に今回入会した。歩行、気象などの基礎講座に加え、岩、沢、などの特殊技術をおしえていただき、改めて登山の難しさ、厳しさ楽しさが少し分かって来たように思う。そして、みんなが楽しく安全に行動するためには、おたがいが、他の人に迷惑をかけない、不愉快な目にあわさないと互いに尊重しあうマナーとモラルが大切だと思う。学校を開いて、色々とお話を下さった関係者の先生方と会にお礼を申し上げます。有難うございました。

【山本理】すべてが楽しかった登山学校、という訳ではない。山雑誌の写真に魅せられ勢いで足を突っ込んだ“もやしっ子”。テント泊、ボッカ訓練、岩登り。いちいち「私はどこに向かっているのだ？」と自問した。しかし修了した今、もっともっとチャレンジしたい気持ちで溢れている。沢山のきっかけが詰まったこの初級登山学校は、素晴らしい活動だと感謝しきれない。